

# 第1学年 道徳学習指導案

大野小学校1年 児童7名 授業者 赤澤 智子

## 1 総合単元名 「さかせよう やさしさの花」

## 2 総合単元について

学校という新しい社会での生活に、期待と不安を胸に入学してきた7名の子どもたち。そんな子どもたち一人一人が、「学校は楽しい」と笑顔で登校してくることが何よりうれしいことである。そのためには、子どもたちを学校生活に適應させていくとともに、子どもたちに学校が安心して自分らしさを発揮できる場であり、友だちと共に仲良く活動できる楽しい場であることを感じさせていくことが重要である。入学式の日、子どもたち一人一人の頭をなでながら、「スーパー1年生の種」をまいた。この種は目には見えないけれど、あきらめずに精一杯頑張ったり、友だちに優しいことをしたりすると芽が出て、大きく育つ種である。学校生活での取り組みを道徳の学習を通してさらに高め、子どもたちが現在の自分よりもっと豊かな生き方を知り、自分の努力や成長のあとに気づき、自分の生き方に自信がもてるようになってほしい。そして、7名それぞれの芽が大きく育ち、一人一人が自分のよさを発揮し、自分色の花を咲かせられるよう、総合主題を「がんばるスーパー1年生」とし、取り組むことにした。

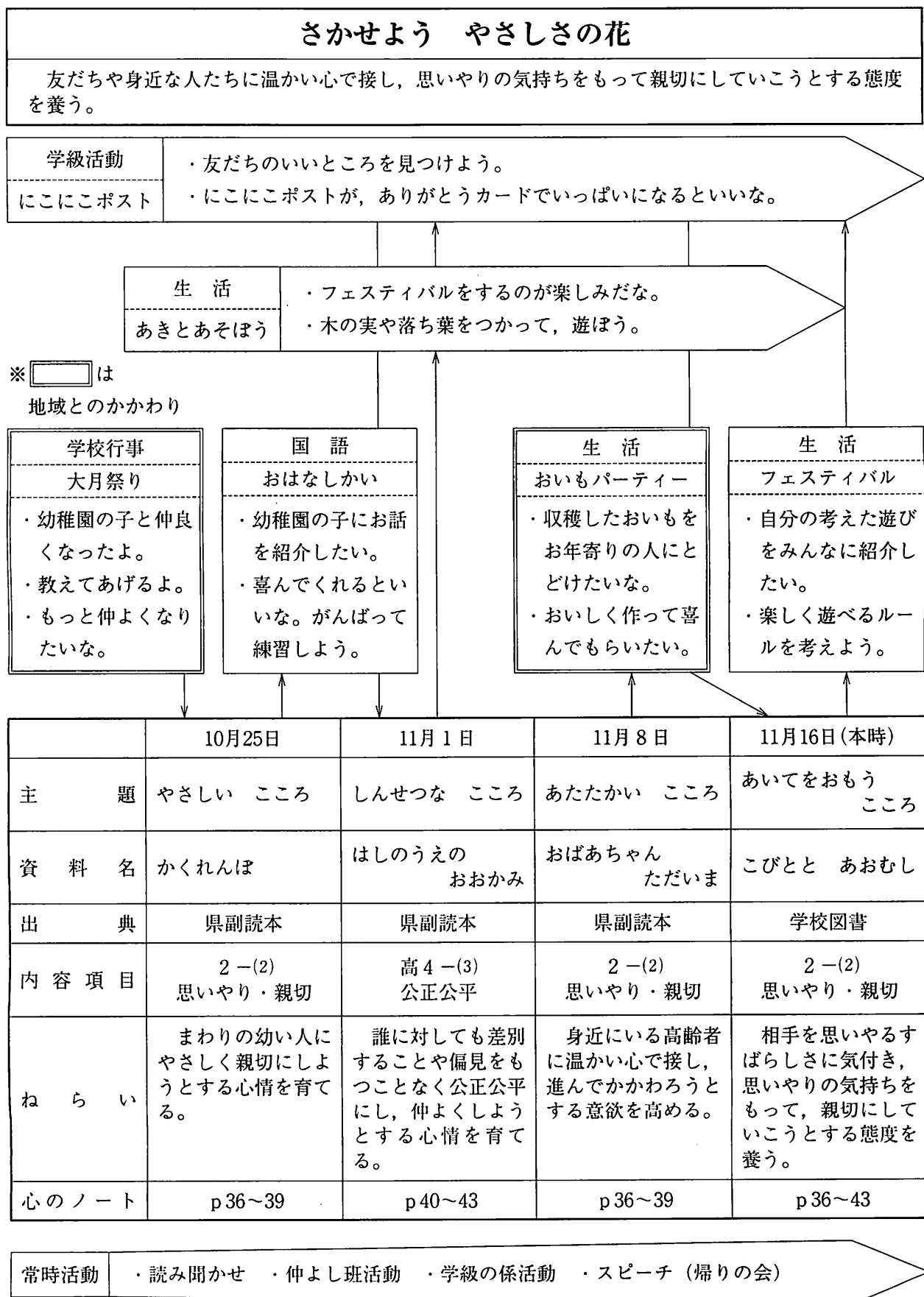
本学級の子どもたちは、男子4名、女子3名の計7名である。保育所や幼稚園で共に過ごしており、お互いのことをすでに知っているもの同士である。初めての活動には時間がかかり、とまどいが見られるが、明るく素直で、学んだことを実践しようとする意欲が強い。時間がかかっても1度したことはよく身につけ、係や当番の仕事にも張り切って取り組み、進んで活動することができる。また、優しい気持ちをもっており、困っている友だちにすぐに声をかけ手助けしたり、頑張っている友だちを応援したりする姿が見られる。しかし、うまく言葉で伝えることができず、きつい言い方で相手の心を傷つけたり、相手の気持ちを考えず自分の思い通りに物事を通そうとしたり、自己中心的な面も見られる。

1学期は、子どもたちのやる気を成長につなげたいと考え、総合単元「そだてよう がんばりのめ」とした。目標をもち、最後まであきらめずがんばることの喜びを感じさせ、自分でやらなければならないことは最後まできちんとがんばろうとする態度を養うことに努めた。

2学期は、総合単元「さかせよう やさしさの花」とした。お互いの思いや願いを認め合い、励まし合える仲間がいてこそ、生き生きと安心して自分らしく活動することができる。優越感や自己満足からくる親切ではなく、誰に対しても相手の立場に立った親切が大切であることに気付かせていきたい。そして、幼稚園児や支援ハウスの高齢者との交流を通して、友だちや身近な人々に温かい心で接し、親切にしていこうとする実践意欲を高めたい。

3学期の総合単元は、「つたえよう ありがとうのみ」とする。お世話になっている身近な人たちに気付かせ、感謝する気持ちを養うとともに、地域の自然や人々との交流体験を通して、大野の地域や自然への親しみの心を育てたいと願い設定している。

### 3 単元構想表



## 4 本時の学習

(1) 主 題 名 あいてをおもう ころ

(2) 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

2 - (2)	身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し，親切にする。
---------	-----------------------------

よりよい人間関係を築いていくには，困っている人に対し，何とか力になりたいという，思いやりの気持ちが不可欠である。これは，相手の身になって考え，その苦しみや悲しみを自分のこととして感じる共感や一体感が根底となっている。そして，このような思いやりの気持ちに基づいて行われる具体的な行為が親切である。親切は，人に対する優しい心情のあらわれであり，人間関係を和やかにし，社会生活の基本となる。

1年生の子どもたちの指導においては，その人間関係の広がりや発達段階から，まず，身近な人に対して温かい心で接し，相手の立場や気持ちをよく考え，幼い人や弱い立場にいる人，困っている人に親切にしようとする気持ちを育てることが大切である。そこで，このような温かい心情を，1年生の時からじっくりと大切に育てることが重要であると考え，本主題を設定した。

<子どもの実態>

子どもたちは，明るく素直で，学習活動や遊びも活発になってきている。7人それぞれ個性を發揮し一緒に楽しく遊ぶことができ，仲もよい。困っている友だちがいたら，「どうしたん。」と声をかけ，一緒に考えたり，手助けをしたりすることができる。分からないことがある友だちには，「教えようか。」「こうしたらええよ。」と進んで声をかけたり，がんばってる友だちを応援したりするなど，友だちに対するやさしい行動がみられようになっている。また，よくないことはお互いに注意しあうこともできるようになっている。

しかし，一見親切な行為でも，実はお節介であるようなことや，押しつけとなっていることもある。また，真に相手の気持ちや立場を考えて行動することは難しく，自分の思いを通そうとしたり，かける言葉がきつくなったりすることにより相手が傷ついているのに気付かないこともある。

そのために，資料を通して，相手を思いやる気持ちのすばらしさに気付かせ，相手を思いやる気持ちをもって，自分にできる親切をしていこうとする意欲を高めていきたい。

<資料について> 資料名「こびととおむし」(出典 学校図書)

十五夜にお月さまのうさぎからもらったたった1つのおもちを，おなかをすかせたあおむしにあげてしまう，みつとりこびと。翌年の春，みつとりこびとは，美しい蝶となってあらわれたあおむしにより，王さまに選ばれる。本時では，資料を通して，みつとりこびとと他のこびとたちの気持ちや行動を考えさせることにより，おもちをあげたみつとりこびとのやさしい気持ちに共感させたい。また，蝶になったあおむしがやってきたのを単にあおむしの恩返しととらえるのではなく，みつとりこびとのやさしい気持ちに対する結果であり，親切が新たな親切を生んだというあたたかな心の交流を感じ取らせたい。

(3) ね ら い

相手を思いやるすばらしさに気づき，友だちや身近な人に温かい心で接し，親切にしていこうとする態度を養う。

## (4) 展 開

□指導上の留意点 ●評価

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 本時の学習について知る。	○みつとりこびとの紹介をします。 ・どんなお話かな。 ・みつとりこびとって、かわいいな。	□みつとりこびとのことを知らせることにより、資料への導入を図る。
2 資料「こびととおおむし」を聞いて、みつとりこびとの気持ちを中心に話し合う。 ・やっとなつだけもちを拾えたときの気持ち  ・たった1つのもちをおおむしにあげたときの気持ち  ・きれいな蝶を見たときの気持ち	○みつとりこびとの気持ちになって、お話を聞きましょう。  ○やっとなつだけ拾えたみつとりこびとは、どんな気持ちだったでしょう。 ・1つ拾えてよかった。・うれしいな。 ・大切に食べよう。 ・大事にしよう。  ○たった1つのもちをおおむしにあげたみつとりこびとは、どんな気持ちだったでしょう。 ・かわいそう。 ・このままでは死んでしまうかも。 ・だれもあげる人がいない。 ・ほくより大変そう。 ・気持ち悪いと言われてつらいだろう。  ○みつとりこびとは、蝶になったおおむしにどんなことを言ったでしょう。 ・びっくりしたよ。 ・蝶になってよかったね。 ・おもちをあげてよかった。 ・ほくもうれしいよ。	□場面絵を見せ、話の内容を読み聞かせる。  □キーワードについて考えさせることにより、もちをやっとなつだけ拾えたみつとりこびとの気持ちに共感できるようにする。  □おおむしに対する、こびとたちとみつとりこびとの行動や気持ちを考えさせることにより、みつとりこびとの優しい気持ちに気付くことができるようにする。 ●自分のことより、相手を思いやるみつとりこびとの優しい気持ちに気付くことができたか。  □場面絵を提示し、みつとりこびとと蝶の幸せを感じることができるようにする。
3 自分の生活について振り返る。	○みつとりこびとのように、一生懸命に相手のことを思って、何かをしたことがありますか。 ・忘れ物をした友だちに、自分の物を貸した。 ・けがをした友だちを保健室へ連れて行った。	□自分の生活を振り返らせ、その時の気持ちも発表させる。 ●相手の立場や気持ちを考えて行動しようとする意欲がもてたか。
4 本時のまとめをする。	○自分色のやさしさの花をたくさんさかせていきましょう。	□にこにこポストに届いたカードを受け取ることにより、実践への意欲づけを図る。